



「有病高齢者の安心安全な歯科医療を 実現するためのリスクマネジメント」

おおわたり つねと

大渡 凡人 先生

公立大学法人 九州歯科大学
リスクマネジメント歯科学分野 教授

【抄録】

我が国の著しい人口高齢化は、経済をはじめ我々の生活にさまざまな影響を及ぼしています。歯科に置いても人口高齢化による影響は多方面で認められますが、その重要なひとつが有病高齢者の著しい増加です。

歯科を受診する患者さんは、以前は若くて健康な方がほとんどでした。しかし、人口高齢化により、重篤な全身疾患をもち、複数の薬剤を処方され、生命にかかわる難しい手術やカテーテル治療を受け、人工ペースメーカーやICDなどの人工的なデバイスを植え込まれている複雑な背景の有病高齢者が増えてきました。それに伴い、全身的偶発症の頻度も高くなり、安心安全な歯科治療を実現するのは容易ではなくなってきました。身近なところでも、重篤な全身的偶発症が発生したというお話を聞く機会が増えています。その一方で、医療事故に対する社会的制裁は日に日に厳しくなっているのが現状です。

自身の経験でいえば、25年以上前に首都圏の大学でリスクマネジメントを始めた頃は、有病高齢者は非常に少なく、若い歯科医療従事者をじっくり教育できる時間的余裕がありました。しかし、時代とともに有病高齢者が増え、同時に医学部や病院などから重篤な全身疾患を持つ高齢者の紹介が多くなってきました。その結果、やってもやっても臨床が終わらないうえ、しばしば全身的偶発症が発生し、対応に追われる毎日になってしまいました。いわば、人口高齢化による有病高齢者の増加と全身的偶発症リスクの上昇を、身を持って経験させていただいたといえます。

このように有病高齢者が著しく増加した状況で、安全安心な歯科医療を実現するためにはどうすればよいのでしょうか。その実現は容易ではなく一朝一夕にはいきません。しかし、(地味な作業ですが)全身疾患や薬剤に関する、我々歯科医療従事者にとって最小限必要な知識を身に着け、医学的エビデンスに基づいた着実なリスクマネジメントを行えば、そのリスクを最小限にすることは可能です。具体的には、全身的偶発症の「予防」「早期発見」そして「対応」の3つのプロセスが必要ですが、なかでも有効な「予防」に注力するのです。この「予防」を有効に行うためには、患者の正確な医療情報(病歴・薬剤情報、理学的検査データ、医師からの医学的情報など)を入手し、それを理解し、全身状態を評価し、起こりうる全身的偶発症を「予測」する必要があります。そのうえで、全身的偶発症のリスクを低下させるための手段を医学的なエビデンスに基づいて論理的に考え実行しなければなりません。

今回は、有病高齢者の安心安全な歯科医療を実現するためのリスクマネジメントに必要な知識と考え方のうち、最も重要と思われるポイントについて、できるだけわかりやすく解説させていただく予定です。